

挑戦するシルバー

# 熟年からの “いきいきパソコン人生”

(財)ダイヤ高齢社会研究財団 編  
明生システムサービス株式会社

パソコンで  
活躍の  
チャンス

熟年からの

“いきいき  
パソコン人生”

(財)ダイヤ高齢社会研究財団 編  
明生システムサービス株式会社

KDD  
クリエイティブ

KDD  
クリエイティブ



私たちはややもすると高齢者問題を介護問題と結びつけて考えてしまうところがあります。調査によると実際に介護を要する高齢者は全体の五〇程度であり、他に健康に問題のある高齢者が二〇〇程度おられるので、高齢者全体の二五〇の方がなんらかの意味で介護やサポートを必要とするわけです。しかし、圧倒的に多い約七五〇の高齢者は身体的にはお元気で毎日を過ごしておられることになりました。

ところが、この元気な高齢者の方たちの“生きがい”がいま大きな問題になってきているのです。とくに企業に長年勤めて退職された方は定年を境にして生活環境が一変します。会社とのつながりが切れてしましますし、今までの仕事に代わる“やること”が見つけれなくなってしまうからです。こういうことから生きがいをなくし、二五〇の仲間入りをする高齢者も少なくないのです。もちろん介護問題は大切ですが、なんらかの社会参加を求めるところした元気な高齢者たちの生きがいは今や重要な社会問題となってきました。

この問題の解決のかぎを握っているのがパソコン通信です。パソコン通信は、居ながらにして離れた場所にいる多くの人と気軽にコミュニケーションができ、社会参加のきっかけが得られるからです。このことからダイヤ高齢社会研究財団では、高齢者のためのパソコン通信ネットワークづくりを発案しました。

しかし、問題はそういう高齢者が果たしてパソコン通信を使いこなせるかどうかです。パソコン通信によつてコミュニケーションができるようになるには、パソコンをある程度使いこなせなければなりません。

その具体的な回答が本書の中にあります。本書は、ダイヤ高齢社会研究財団の高齢社会リサーチモニターの中の有志、二六名（平均年齢六八歳）の方がパソコン通信をマスターするトリアル（「パソコン通信入門コース」）に参加いただき、高齢者でも意欲さえあれば十分パソコン通信を使いこなせるようになるということをたくさんの事例をあげて解説しています。

高齢者に対するこうしたトリアルは今までにも行われたことがあります。今回のトリアルの最大の特徴は、それを通信教育でやったことにあります。なぜ特徴的かというと、通信教育でやれるということになると教室が

いらないので全国レベルに拡大することができ、熟年層全般に幅広く適用することが可能になるからです。

今回のトライアルに採用した教育システムは、明生システムサービス株式会社が数年にわたり研究を重ねてきたヘルプデスク付き通信教育『パソコン家庭教授』のノウハウを結集して構築したものです。本書をお読みいただくことにより、中高年を含む熟年の方たちがパソコンをどのように修得したらよいかについて、有益なヒントが数多く得られるはずです。本書がこれからパソコンに挑もうとする熟年の方にとってお役に立てれば幸いです。

本書は、四つのパートから成り立っています。

パート①は、今回のトライアルの中心団体と企業のトップによる鼎談<sup>ていだん</sup>

パート②は、熟年の方々のパソコン修得方法のノウハウの紹介と解説

パート③は、トライアルに参加したモニターの方々による座談会とインタ

ビュー

パート④は、ダイヤ高齢社会研究財団からの提言

どこでも関心のあるパートからお読みいただけるよう配慮してあります。

本書の発行に当たっては、実際にこのトリアルに挑戦された高齢（熟年）者の方々に取材などの面でいろいろご協力いただきました。また、今回のトリアルに対して快くパソコンをご提供くださったコンパック株式会社、ヘルプデスクをご担当いただいた早稲田電子専門学校通信教育部のスタッフ、それから本書の出版をお引き受けいただいた株式会社KDDクリエティブの編集担当者の皆様に対して心から感謝の意をささげます。

一九九六年九月一五日

財団法人ダイヤ高齢社会研究財団

常務理事 若林健市

明生システムサービス株式会社

代表取締役 奥山貞夫